

港湾口海水放射線モニタの試運転状況について

平成27年3月26日
東京電力株式会社



無断複製・転載禁止 東京電力株式会社

1

1. 港湾口海水放射線モニタの設置

【設置目的】

- 定期的を実施している海洋モニタリングを、常時（1時間毎）行うことで傾向監視の頻度を高める。また万が一、1F敷地から海洋への新たな漏洩事象が発生した場合の影響把握を目的とする。

【試運転経緯】

H26年

- 9/ 4 試運転開始
- 9/ 8 陸上ストレーナ詰まりによる差圧高により装置停止が頻発する
空調機ストレーナ詰まりが頻発
- 9/11 紫外線滅菌装置破損により、装置停止
- 10/ 6 豪雨によりカバー天板より漏水発生（10/9応急処置実施）
- 10/ 8 紫外線滅菌装置新品と交換 装置再稼動
- 10/ 8 手分析値とモニタ値との比較にて相違が判明
- 11/ 7 サイクロンセパレータ設置
- 11/11 検出器のBG再測定、実液校正、ゲイン調整（～11/25）
- 12/19 検出器再ゲイン調整、⁴⁰K補正解析ソフト導入（～12/22）

H27年

- 1月～ ソフト導入後の手分析値とモニタ値でのC s濃度比（137/134）はほぼ解消したが、濃度はモニタ値が手分析値より高目で推移し、除々に上昇傾向を示す。
- 2 /5 測定器チャンバー内清掃を実施
- 2 /6 近海の海水にてBG測定および、BG値の入替実施
- 2 /9 手分析値及びモニタ値が、判定基準値（手分析値の30%以内）を確認以降データ採取継続中

2. 港湾口海水放射線モニタの試運転状況

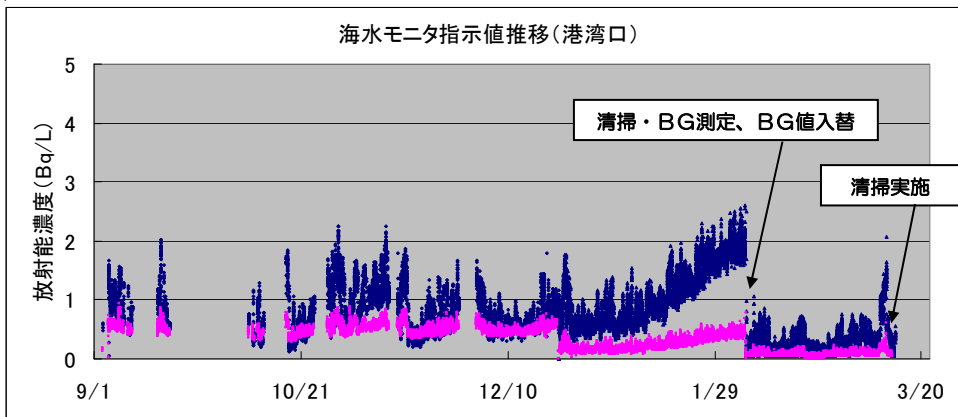
●9月4日より試運転を開始。

(試運転状況)

■装置稼働日

	H26.9	H26.10	H26.11	H26.12	H27.1	H27.2	H27.3	H27.4
運転状況								

- ※1：装置入口ストレーナ差圧高により停止
- ※2：紫外線殺菌装置破損により停止
- ※3：装置入口ストレーナ差圧高により停止（高波が続き防波堤作業出来ず）
- ※4：ゴミ、砂詰まり対策の為停止（遠心式固液分離応用装置設置(サイロツパレタ)
- ※5：検出器ゲイン調整及び端末ソフト入替
- ※6：チャンバー内清掃・BG測定およびBG値入替
- ※7：チャンバー内清掃

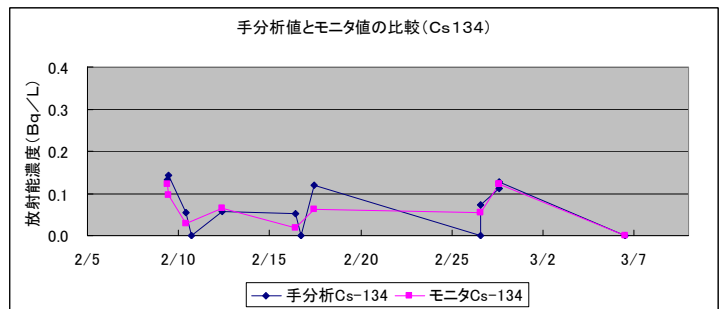
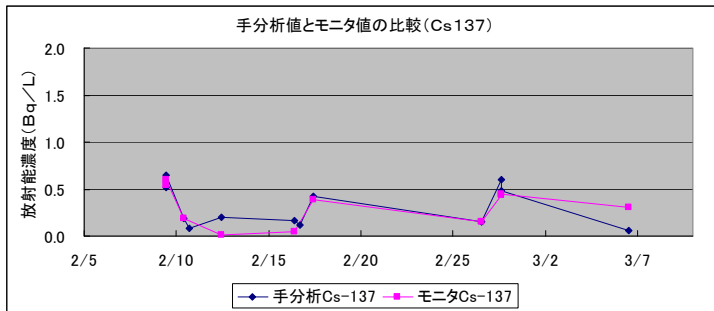
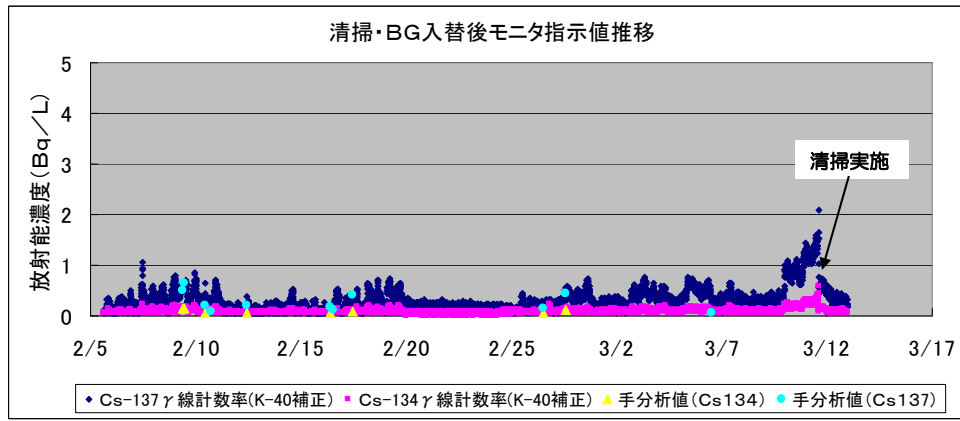


3. 清掃・再BG設定後の手分析値とモニタ指示値比較

日時	手分析 (Bq/L)		海水モニタ (Bq/L)		誤差 (%)		誤差判定値 (%)	合・否	備考
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs			
2/ 9 9:57	0.133	0.514	0.146	0.574	+9.8	+11.6	手分析値の±30%以内	合・否	
2/ 9 11:10	0.143	0.650	0.148	0.572	+3.3	-12.0		合・否	
2/10 9:52	0.054	0.193	0.068	0.191	+25.2	-0.80		合・否	
2/12 10:00	0.056	0.194	ND	0.140	-	-27.9		合・否	
2/16 12:36	ND	0.123	ND	0.090	-	-27.1		合・否	
2/17 10:33	0.119	0.423	0.102	0.396	-14.1	-6.40		合・否	
2/26 13:14	ND	0.151	ND	0.168	-	+11.2		合・否	
2/26 13:20	0.073	0.157	ND	0.159	-	+1.10		合・否	

判定基準：手分析値の±30%

4. 清掃・BG入替後の手分析値との比較グラフ



5. 今後の予定

○本格運用開始予定：H27年4月1日（水） ～

- 関係各所への概要及び運用方法を説明
- 運用開始に伴う、当社HPへの掲載
 - ・ 今後HP掲載用のシステムを構築していく予定

